

横浜市立上郷中学校 学校評価報告書 (平成25年度～平成27年度)

共通取組 重点取組	平成25年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本を十分に習得できる授業の確立 <ul style="list-style-type: none"> ・理解度の把握に努め、個別の学習支援方法を考えた授業を行います。 ・サマー学習会や補習などを行い、授業がわかる生徒を増やしていきます。 ○教科指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・教科会の充実を図り、よりよい教科指導や評価法などについて検討します。 ・小中連携で授業公開、授業研究会を行い、指導方法の研究の充実を図ります。 ○学習習慣の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・5教科の宿題プリントを利用して家庭学習を充実させ、学習習慣を向上させます。 	生徒の学力向上に向けた目標を設定し、達成に向けて創意工夫した授業展開を行っているが、より多くの生徒が学力向上を実感できるように工夫を続ける必要がある。	A B C D
2 豊かな 心	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳の時間の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・全学級の道徳を年1回公開します。 ○体験活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育を通じて望ましい職業観や労働観を育てます。 ○確かな人権感覚・意識の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒理解の一助としてQ.U.を実施し、課題解決に取り組みます。 ・人権教育を基盤とした授業を通じて人権感覚・意識を育みます。 	横浜マイスター、職場体験などを通じて職業観や労働観を育んだ。道徳や進路学習を通じて生徒自身が未来を考える力をさらに伸ばしていきたい。	A B C D
3 健やかな 体	<ul style="list-style-type: none"> ○保健体育科での取組 <ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたって運動に親しむ態度を育てます。 ・自ら進んで健康な心と体を向上させる態度を育てます。 ・仲間と助け合い、励まし合いながら向上していこうとする態度を育てます。 ○他教科での取組 <ul style="list-style-type: none"> ・理科：生物、環境教育との関連 ・家庭科：食育との関連 ○課外活動での取組 <ul style="list-style-type: none"> ・運動部活動の推進 ・昼休みのボール貸し出し ・大縄跳びの推進 	生徒の健康や心の成長を促す取組として、昼休みの運動の奨励や、体育祭時の大縄の取組などができた。教科でも保健体育をはじめとして、多くの場面で健康への意識が高められた。	A B C D
4 地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事への生徒の参加を推奨し、地域との協働化を進めています。 ・学校の取組や生徒の活動の様子が伝わるように工夫して地域に発信します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○祭りなど、地域行事への生徒参加を推奨できた。 ○HPの活用など、地域への情報発信を工夫したい。 	A B C D
5 生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・相談活動を充実させて生徒一人ひとりの課題を把握し、生徒理解に努めます。 ・生徒と向き合い、信頼関係づくりに努め、職員と生徒の温かいつながりを生み出します。 	教育相談などを通じて、生徒理解に努め、信頼関係づくりに取り組むことができた。	A B C D
6 特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・支援を必要とする生徒一人ひとりについて把握し、職員の共通理解を図ります。 ・生徒一人ひとりの特性や状態に応じた指導を組織的に行います。 	情報交換を行い、共通理解を図った。組織的な対応をすることができた。	A B C D
人材育成 組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ等の今日的な課題に対して、計画的な校内研修を実施し、力量向上に努めます。 ・リターンを充実させ、中堅・ベテラン職員が関わりながら若手職員の実践力を高めます。 ・組織の目標と教職員の目標を連動させ積極的に学校運営に参画する体制を確立します。 ・組織の効果的運営と「リターナー」の育成を目指し、学年連絡会や主幹会を充実させます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○Q.U.研修など、を通じて生徒理解の力量向上に努めた。 ○若手職員の実践力向上効果がより高まるように、組織としての取組を工夫したい。 	A B C D
小中一貫 教育推進 ブロック 内相互評価 結果	情報交換や研究授業を通じて、小中職員間の交流を進めることができた。今後は「9年間で育てる、地域の子どもの姿」を意識して、さらに連携を密にできるとよい。		
学校関係者 評価結果	地域行事などへ中学生の積極的な参加ができていたことは評価できる。一方で、そのような取組状況を地域へ発信する機会がもっとあってもいいので、HPなどの広報の工夫や積極的な活用が課題である。		
評価結果 に対する 学校の見解	中学生の地域行事への参加は今後も推奨していく。また、指摘のあった、HPなどを用いた情報発信については、工夫しながら行っていく。		

学校経営 中期目標 達成状況	学力向上について、学力学習状況調査の結果ではまだ十分に効果が上がっている状況にはない。基礎基本の定着などを目指して、今後もさらに工夫が必要である。相談活動の充実をはかり、要支援生徒についての情報共有をすることなど、生徒一人ひとりを大切にしたいきめ細かい指導に取り組んでいる。学校評価アンケートからは、学校と家庭と地域が協力して教育活動に取り組んでいる状況がわかるが、情報発信に課題があることが指摘されている。
----------------------	--

共通取組 重点取組	平成26年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本を十分に習得できる授業の確立 <ul style="list-style-type: none"> ・理解度の把握に努め、個別の学習支援方法を考えた授業を行います。 ・サマー学習会や補習などを行い、授業がわかる生徒を増やしていきます。 ○教科指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・校内授業研究会や研修の充実を図り、よりよい教科指導や評価法などについて検討します。 ・小中連携で授業公開、授業研究会を行い、指導方法の研究の充実を図ります。 ○学習習慣の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・5教科の宿題プリントを利用して家庭学習を充実させ、学習習慣を向上させます。 		A B C D
2 豊かな 心	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳の時間の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・全学級の道徳を年1回公開します。 ○体験活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育を通じて望ましい職業観や労働観を育てます。 ○確かな人権感覚・意識の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒理解の一助としてQ.U.を実施し、課題解決に取り組みます。 ・人権教育を基盤とした授業を通じて人権感覚・意識を育みます。 		A B C D
3 健やかな 体	<ul style="list-style-type: none"> ○保健体育科での取組 <ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたって運動に親しむ態度を育てます。 ・自ら進んで健康な心と体を向上させる態度を育てます。 ・仲間と助け合い、励まし合いながら向上していこうとする態度を育てます。 ○他教科での取組 <ul style="list-style-type: none"> ・理科：生物、環境教育との関連 ・家庭科：食育との関連 ○課外活動での取組 <ul style="list-style-type: none"> ・運動部活動の推進 ・昼休みのボール貸し出し ・大縄跳びの推進 		A B C D
4 地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事への生徒の参加を推奨し、地域との協働化を進めています。 ・学校の取組や生徒の活動の様子が伝わるように工夫して学校通信やHPなどを通じて地域に積極的に発信します。 		A B C D
5 生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・相談活動を充実させて生徒一人ひとりの課題を把握し、生徒理解に努めます。 ・生徒と向き合い、信頼関係づくりに努め、職員と生徒の温かいつながりを生み出します。 		A B C D
6 特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・支援を必要とする生徒一人ひとりについて把握し、職員の共通理解を図ります。 ・生徒一人ひとりの特性や状態に応じた指導を組織的に行います。 		A B C D
人材育成 組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ等の今日的な課題に対して、計画的な校内研修を実施し、力量向上に努めます。 ・リターンを充実させ、中堅・ベテラン職員が積極的に関わりながら若手職員の実践力を高めます。 ・組織の目標と教職員の目標を連動させ積極的に学校運営に参画する体制を確立します。 ・組織の効果的運営と「リターナー」の育成を目指し、学年連絡会や主幹会を充実させます。 		A B C D
小中一貫 教育推進 ブロック 内相互評価 結果			
学校関係者 評価結果			
評価結果 に対する 学校の見解			
学校経営 中期目標 達成状況			

A … 十分達成 B … 概ね達成 C … 努力必要 D … 改善必要

共通取組 重点取組	平成27年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力			A B C D
2 豊かな 心			A B C D
3 健やかな 体			A B C D
4			A B C D
			A B C D
			A B C D
			A B C D
			A B C D
人材育成 組織運営			A B C D
小中一貫 教育推進 ブロック 内相互評価 結果			
学校関係者 評価結果			
評価結果に 対する 学校の見解			
学校経営 中期目標 達成状況			

学校経営 中期目標 達成状況	
----------------------	--